



YBHD NEWS No.51

株主通信

平成29年8月



つなぐ、むすぶ、広げる、未来へ

The Next Perspective



株式会社 横河ブリッジホールディングス

証券コード：5911



代表取締役社長

荒井 久司

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
ここに、株主通信「YBHD NEWS」第51号をお届けいたします。

我が国経済につきましては、世界経済の回復を受けて製造業を中心に輸出が伸び、企業業績が好調に推移いたしました。しかし、個人消費の本格的な回復など経済の好循環には至っておらず、先行きが不透明な状況が続いております。

建設業界につきましては、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催が3年後に近づき、関連施設や周辺インフラの整備が本格化しています。また、都市部を中心とする再開発事業も活況を呈しており、建設投資は今後暫く堅調に推移するものと思われまます。

以上の環境下、当社グループの当第1四半期の業績は橋梁事業とエンジニアリング関連事業ともに好調であり、第1四半期として過去最高の受注高を達成することができました。橋梁事業につきましては、国土交通省を中心に比較的多数の大型工事が発注され、当社グループは順調に受注を伸ばし、当第1四半期の受注高は昨年同期と比べ倍増いたしました。また、エンジニアリング関連事業につきましては、システム建築事業の受注高が四半期として過去最高となり、更にシールドトンネル向けセグメントの受注を積み重ねることができました。

新設橋梁市場は今後も厳しい状況が続くものと予想されますが、当社グループは引き続き、橋梁事業全体の拡大、エンジニアリング関連事業の成長を図ることにより更なるグループの発展に努めてまいります。

役員・従業員一同、株主の皆様のご期待に応えられますよう事業に取り組んでまいりますので、引き続き倍旧のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成29年8月

平成29年7月31日に、平成30年3月期第1四半期（平成29年4月1日から平成29年6月30日まで）の決算短信を公表いたしましたので、その概況につきましてご紹介いたします。

連結経営成績（累計）

	平成30年3月期第1四半期	平成29年3月期第1四半期
売上高	28,548 百万円	23,657 百万円
営業利益	2,469 百万円	836 百万円
経常利益	2,622 百万円	922 百万円
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,767 百万円	515 百万円

【連結経営成績に関する定性的情報】

当社グループの当第1四半期の受注高は、394億5千万円（前年同期比88.5%増）となり、前年同期並びに第1四半期としての過去最高を大きく上回りました。

セグメント別の受注高は、橋梁事業207億8千万円（同100.0%増）、エンジニアリング関連事業169億3千万円（同79.1%増）、先端技術事業17億4千万円（同60.0%増）となりました。

決算面につきましては、売上高は285億4千万円（同20.7%増）、営業利益は24億6千万円（同195.4%増）、経常利益は26億2千万円（同184.4%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は17億6千万円（同242.9%増）となり、いずれの数値も第1四半期として過去最高となりました。

セグメント別の売上高は、橋梁事業につきましては豊富な手

持ち工事が順調に進捗しましたため、売上高は152億4千万円（同20.5%増）となりました。売上高の増加と保全工事の損益改善などが寄与し、営業利益は11億5千万円となり、前年同期（5千万円の利益）を大幅に上回りました。

エンジニアリング関連事業につきましては、受注の増加から高い操業度が続いたシステム建築事業が業績を押し上げ、売上高は115億9千万円（同15.9%増）、営業利益は12億3千万円（同46.7%増）となりました。

先端技術事業につきましては、精密機器製造事業の好調な受注により売上高は5四半期連続で増収の15億1千万円（同90.2%増）となり、営業利益は2億6千万円（同98.4%増）となりました。

平成30年3月期の連結業績予想

	第2四半期連結累計期間 (平成29年4月1日～平成29年9月30日)	通期 (平成29年4月1日～平成30年3月31日)
売上高	65,000 百万円	130,000 百万円
営業利益	4,000 百万円	8,200 百万円
経常利益	4,000 百万円	8,250 百万円
親会社株主に帰属する当期純利益	2,650 百万円	5,500 百万円
1株当たり当期純利益	64 円 01 銭	132 円 86 銭

【連結業績予想に関する将来予測情報】

業績は概ね計画どおり進捗しておりますため、平成30年3月期第2四半期連結累計期間および通期の連結業績予想につきましては、前回（平成29年5月15日付け）公表いたしました予想値から、現時点では変更はありません。

株式会社横河技術情報

代表取締役社長 小林 明

○就任の抱負

当社は、株式会社横河橋梁製作所(現・株式会社横河ブリッジホールディングス)のコンピューターシステムの開発部門が、1984年7月に分社独立して発足しました。以後、30年来にわたり、鋼構造物の設計・製作分野を中心にソフトウェアの開発と販売、そして構造解析をはじめとする情報処理サービスを事業として展開してまいりました。



当社は、グループの事業会社において事業は小規模ではありますが、当社の保有するソフトウェアおよび積み重ねてきた経験と技術は、グループが事業展開していく上では非常に重要な要素の一つであると自負しております。これらにさらに磨きをかけ、グループの成長に寄与していくとともに、情報システムの提供を通して社会資本の整備に貢献し、お客様からも信頼され必要とされる会社を目指してまいります。

○今後の事業展開

建設事業でのIT導入は、国交省の推進する2012年のCIM(Construction Information Modeling / Management)、2016年のi-Constructionにより新しい局面を迎えています。これらは計画から維持管理までのすべての建設プロセスで構造物の3次元プロダクトモデルの活用により生産性の向上を目指すものです。当社は、これらの動きをビジネスチャンスと捉え、今後も鋼橋関連ソフトウェアのトップランナーとして、CIMとi-Construction対応ソフトウェアを開発し提供してまいります。

また、構造物の保全関連につきましても、設計図を喪失した古い橋の図面を復元する鋼橋復元設計システム等を手掛けてまいりましたが、さらに現場での構造物の計測を簡単に行う写真計測システムを開発し、この分野での市場開拓も行っております。

株式会社横河ニューライフ

代表取締役社長 木本 達也

○就任の抱負

当社は、不動産・人材などグループの経営資源の有効活用をめざし、平成3年に創業いたしました。以来、不動産分野においてはグループが保有するオフィスビル、商業ビル、共同住宅、物流センターの運営・管理業務を、また、人材派遣においては土木・建築のCADオペレータをはじめ、特色を生かした中でお客様のニーズにお応えしてまいりました。



さらに近年、情報インフラの整備、基幹情報システムの構築などに業容を広げております。これら当社事業の一層の拡大を推進し、YBHDグループの発展とともに歩みを進めてまいります。

○今後の事業展開

昨年度は、横河ウエストビル(千葉県船橋市)の新築ほか各営業所の再配置を行いました。これよりグループ保有不動産の次世代に向けた計画を進めてまいります。とくに都市近郊の物流拠点は東京ベイエリア、北関東を中心にネット通販やコンビニの普及に支えられ活況を呈しており、将来を見据えた物流施設の再整備計画に着手いたします。

また、「働き方改革」による雇用制度の見直しは喫緊の経営課題です。当社は、働く皆様と働く機会の架け橋として、それぞれのライフスタイルに合わせた最適なお仕事をご紹介できるようコーディネートしてまいります。

今後とも当社はYBHDグループとのアライアンスを基本とし、総務力の強化に一層努めてまいります。どうか皆様には、変わらぬお引き立てを頂きますようお願い申し上げます。

Topics

1

ときわがわ 常葉川橋架設工事のご紹介

～複雑な施工条件をクリアし、無事に竣工を迎えました～

株式会社横河ブリッジより、常葉川橋架設工事についてご紹介いたします。

工事名称：中部横断自動車道常葉川橋他上部工事
 工期：平成25年2月9日～平成29年3月31日
 発注者：関東地方整備局
 橋梁形式：本線橋4連(連続箱桁3連、連続鉸桁1連)、ランプ橋4連(連続箱桁)
 鋼重：約2,960t(当社施工分)
 所在地：山梨県南巨摩郡身延町波高島地先

本工事は、中部横断自動車道「下部温泉・早川インターチェンジ」に架かる全長520mの区間における、総鋼重約2,960tの桁架設と床版コンクリートの施工を行うものです。

橋梁は地上から最大約40mの高さに位置しており、またインターチェンジ特有の曲線的で複雑な桁の形状をしています。それに加えて、山麓地形・河川渡河部・JR身延線近接、一般道上空と施工条件が多岐にわたり、その条件にあった架設工法を選定する必要がありました。

また、架設の最盛期には、クローラークレーン、トラベラークレーン等を使用して、架設班を複数のグループで編成し、1日に大勢の作業員が施工に携わることになり、安全面にも細心の注意を払いました。その結果、無事故無災害で無事竣工することができました。

中部横断自動車道開通後は、地域ネットワークの構築や物流網の確立などが期待されています。

当社グループは、橋梁事業のリーディングカンパニーとして社会資本の整備に貢献してまいります。



750tクレーンによる架設



トラベラークレーンによる架設



完成写真

Topics 2 当社グループにおけるセグメント事業のご紹介

現在、東京外かく環状道路や横浜環状道路など、首都圏の大型道路トンネルプロジェクトを中心にシールド工法を用いたトンネル工事が複数進められています。今年の春には、横浜環状道路の一部である横浜北線（横羽線～第三京浜）の開通や東京外かく環状道路（関越～東名）のトンネル工事に使用する国内最大級のシールドマシンが発進するなど、ニュースでも取り上げられました。

このようなシールド工法によるトンネル工事に用いられるセグメントについて、当社グループの取り組みをご紹介します。

1 シールド工法とセグメント

シールド工法は、およそ200年前にフランス人技術者のBrunel氏がフナクイムシにヒントを得て考案した工法です。フナクイムシは体の先端にある「硬い貝殻」で木材を食べると同時に、「石灰質の分泌液」を口から出して、穴の内壁を固めながら掘り進んでいきます。これを現在のシールド工法に当てはめると、

- フナクイムシ ⇒ シールドマシン
- 硬い貝殻 ⇒ カッターフェイス
- 石灰化した分泌液 ⇒ セグメント

となります。セグメントはシールドマシンが通過した後にトンネルの壁となり、土圧や水圧などの外力からトンネルを支える重要な構造物です。

このセグメントには、主にRCセグメント、鋼製セグメント、合成セグメントの3種類があり、当社グループでは鋼製セグメントと合成セグメントの製造・販売を行っています。

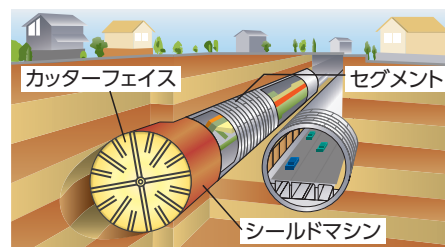
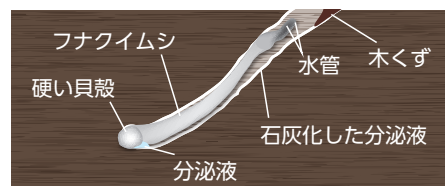
セグメント種類	当社製品	特徴
鋼製セグメント	○	鋼材を加工できるため、多様な形状の部材を製作できる。
合成セグメント	○	鋼材とコンクリートを組み合わせ、高強度のセグメントを製作できる。
RCセグメント	×	製作に型枠を使用し、同形状部材の量産に適する。



鋼製セグメント



合成セグメント



2 施工事例の紹介

首都高中央環状品川線 大橋ジャンクション工事：鋼製セグメント

2015年に開通した、大橋ジャンクションの分合流部に使用されたセグメントです。平行する2本のシールドトンネルを地中で連結する特殊な工法が採用されました。



完成時



製作時(仮組立状況)

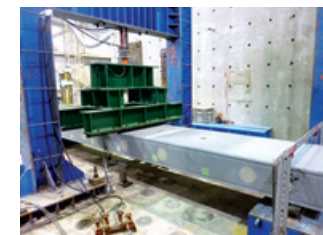
新日比谷プロジェクト 日比谷連絡通路土木工事：合成セグメント

再開発事業により建設される建物と既存の地下鉄駅とをつなぐバリアフリー道路です。都心部であり、多くの埋設物を避けつつ内部空間を確保する必要があることから合成セグメントを用いた矩形断面が採用されました。

量産に先立ち載荷試験を行い製品の耐力等を確認しました。



施工状況



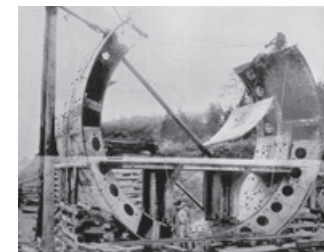
載荷試験状況

3 羽越本線 ^{おりわたり}折渡トンネル

シールド工法は、開削工法に比べ安全性が高い上、地上の規制や騒音を最小限に抑えることができる、景観や周辺住民にやさしい工法であるなどの利点を有しており、この先も都市圏を中心に大小様々なシールドトンネル工事が計画されています。

各工事で大量のセグメントが使用される予定であり、当社グループも積極的に取り組んでいます。

最後に、日本で初めてシールド工法が採用されたトンネルをご紹介します。1917年に着工し、1924年に完成した羽越本線の折渡トンネルです。このトンネルは地質などの条件により、通常の施工法では掘削が困難であり、シールド工法が採用されました。このとき使用されたシールド掘削機は田中豊博士により設計され、横河橋梁製作所（現・株式会社横河ブリッジホールディングス）が製作したものです。



組立中のシールド掘削機
画像提供：土木学会附属土木図書館



鉄道総研に保管されているシールド機の一部
画像提供：公益財団法人鉄道総合技術研究所

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
配当金 交付株主確定日	毎年3月31日、なお、中間配当を行う場合は、 毎年9月30日
定時株主総会	毎年6月下旬
単元株式数	100株
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 〒100-8233 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先 電話お問い合わせ先	東京都杉並区和泉二丁目8番4号 〒168-0063 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)
同取次窓口	三井住友信託銀行株式会社 本店および全国各支店
公告方法	電子公告により行います。ただし、事故その他 やむを得ない事由によって電子公告による公 告をすることができない場合は、日本経済新 聞に掲載して行います。
公告掲載URL	http://www.ybhd.co.jp/

表紙の写真

おおさか東線 神崎川橋梁

所在地:大阪府大阪市東淀川区下新庄~吹田市南吹田

構造形式: 3 径間連続トラス橋

橋長: 171m 鋼重: 1,133 t

YBHDグループ



株式会社 横河ブリッジホールディングス
グループ全体の経営管理



株式会社 横河ブリッジ
橋梁・橋梁関連製品・土木・建築・保全・精密機器製造



株式会社 横河システム建築
システム建築・開閉式建築システム・環境



株式会社 横河住金ブリッジ
橋梁・橋梁関連製品・セグメント



株式会社 榑崎製作所
橋梁・水処理・環境製品・鉄構製品



株式会社 横河技術情報
情報処理サービス・ソフトウェア開発



株式会社 横河ニューライフ
不動産管理・情報システム・人材派遣



株式会社 ワイシーイー
橋梁等構造物の総合エンジニアリング



株式会社 横河ブリッジホールディングス

〒108-0023 東京都港区芝浦四丁目4番44号 TEL. 03-3453-4111 (代表)

<http://www.ybhd.co.jp/>

